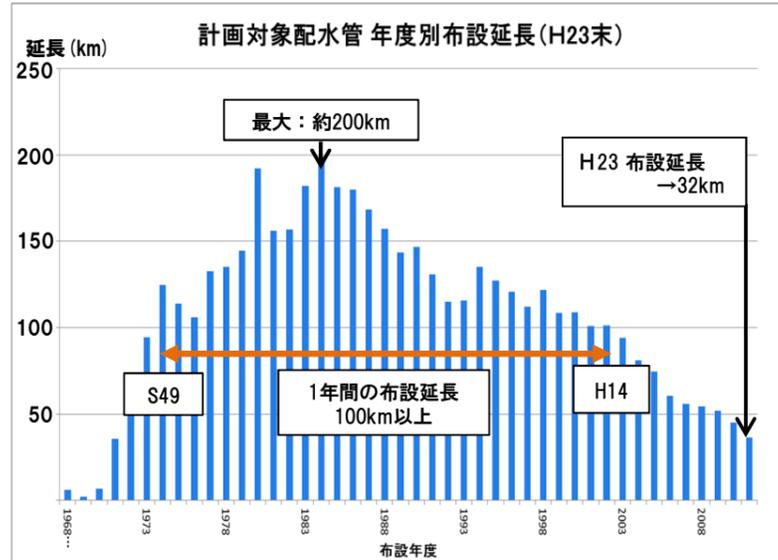


配水管更新計画

1. 現状と計画の必要性

○ 現状



| 配水管延長内訳 | 幹線 (φ400mm以上) | | 枝線 (φ75~350mm) | | 補助管 (φ50mm) | 計 |
|---------|---------------|------|----------------|------|-------------|-------|
| | 計画対象 | 水管橋部 | 計画対象 | 水管橋部 | | |
| | 410 | | 4,749 | 15 | 677 | 5,851 |

○ 計画の必要性

昭和49年度以降は毎年100km以上（最大約200km）の配水管を布設
大量の配水管が次々と経年化＝大量更新時代の到来

大量の配水管が次々と経年化
 ↓
 漏水事故の増加
 ↓
 断水等による市民生活への影響
 有収率の低下
 維持管理費用の増加

様々な問題発生
 のリスクが高まる

大量更新時代の到来
 ↓
 更新事業量の増加
 ↓
 事業費用の増加

財源の確保

将来にわたり配水管の健全性を維持し、
 安全安定給水を確保していくためには・・・

更新事業を継続的かつ円滑に推進していくことが不可欠

配水管の
 延命化

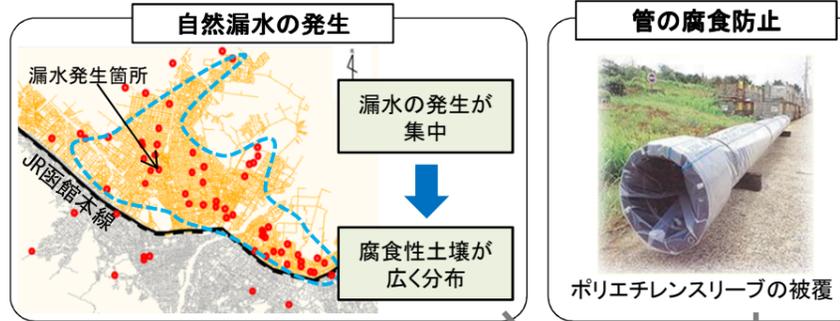
事業量（費）の
 平準化

延命化と平準化を考慮した持続可能な配水管更新計画を策定し
 計画的に事業を進めていくことが必要

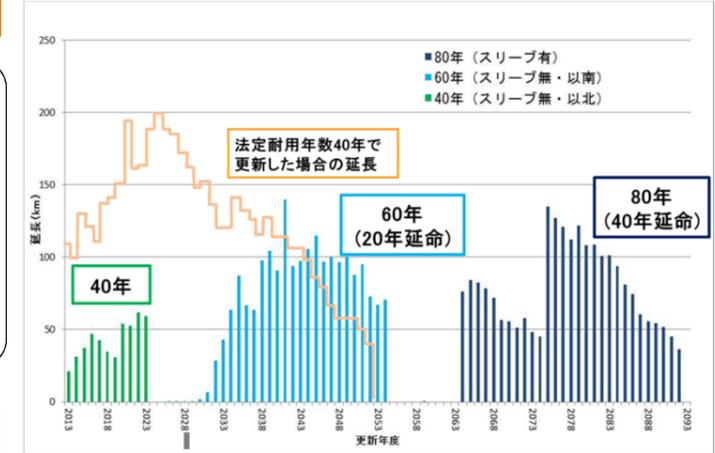
2. 延命化と平準化

延命化

外面腐食のリスクを考慮した更新基準年数を設定



| 法定耐用年数 | 延長 (km) | 更新基準年数 | 延長 (km) | 土質 (外面腐食) | ポリエチレンスリーブの有無 (外面腐食) |
|--------|---------|--------|---------|-----------|----------------------|
| 40年 | 4,749 | 40年 | 482 | 函館本線以北 | 無し |
| | | 60年 | 1,992 | 函館本線以南 | 無し |
| | | 80年 | 2,275 | 市内全域 | 有り |

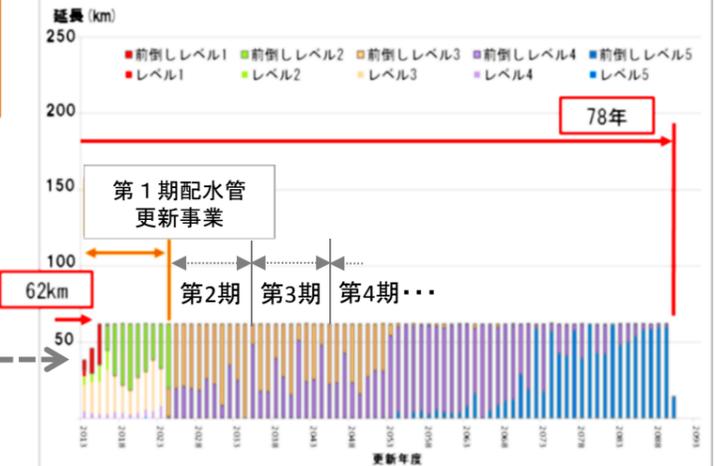
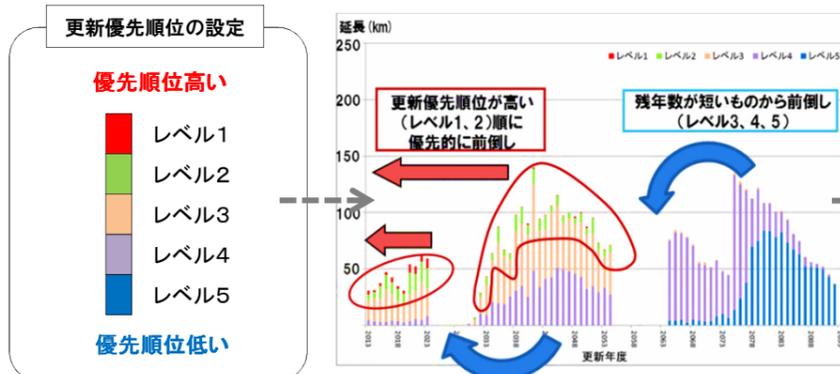


更新需要のばらつき

事業量の平準化

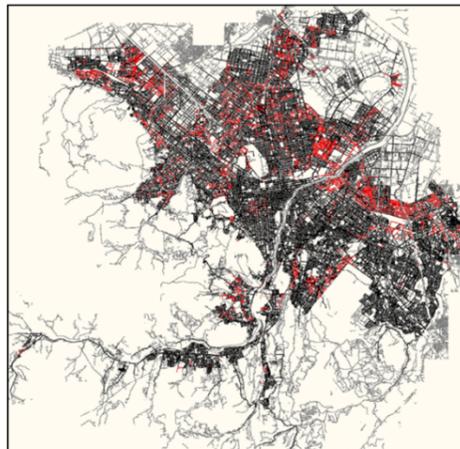
平準化

外面腐食の進行、耐震性、重要度から設定した更新優先順位を基に、前倒しを原則として平準化



- 年間事業量：62km (H23布設延長32kmの約2倍)
- 全対象管路の更新が完了するまでに必要な年数：78年
- 平成25年度から新たな配水管更新事業を実施

3. 第1期配水管更新事業



- 事業期間：12年 (平成25(2013)～36(2024)年)
- 事業延長：約700km
- 概算事業費：約550億円

— : 第1期対象配水管
 — : 第2期以降予定配水管

第2期以降の配水管更新事業は、
 概ね10年単位に区切り、進捗管理
 をしながら計画的に進めていく。